

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：32680

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02868

研究課題名(和文) タスク理論に基づくビジネス日本語教育用教材の開発研究

研究課題名(英文) Development of Task-based Teaching Materials for Japanese in Business Settings

研究代表者

向山 陽子 (Mukoyama, Yoko)

武蔵野大学・グローバル学部・教授

研究者番号：80619817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：第二言語習得研究におけるタスク理論に基づき、真正性の高いビジネス日本語教育用教材の開発を目指し研究を進めた。まず、日本企業で働く元留学生外国人社員のインタビュー調査を実施し、職場で日本語を使用しているタスクを明らかにした。次に、インタビュー調査の結果に基づき、社内外のコミュニケーション能力養成のためのロールプレイ、音声を使用した議事録作成練習用のタスクなどを作成した。さらに、それらの教材を使用して大学、大学院で日本語を学ぶ留学生に対して授業実践を行い、開発した教材の効果を実証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本社会が高度海外人材を求めている現在、そのような人材育成に貢献できるビジネス日本語教育用教材を開発、発表したことには大きな社会的意義がある。教材開発に当たっては、第二言語習得研究におけるタスク理論を踏まえ、実際に日本企業で働いている外国人社員に対する調査を実施し、そこで得られた情報に基づきタスクの真正性を追究した。また、作成した教材を用いた教育実践を通して、教材を用いた指導の効果を検証した。このようにビジネス日本語教育において理論と実践を結び付けた点において、本研究は学術的にも教育的にも意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)： This study aimed to develop teaching materials for Japanese in business settings based on task-based language teaching theory in the field of second language acquisition research. First, we conducted research on the use of Japanese by foreign workers in workplaces to collect information necessary for developing teaching materials with high authenticity. Second, we developed several types of task, such as role plays to foster communicative competence, and audio tasks to practice taking minutes of meetings, based on the information obtained through the research. Then, we taught Japanese to international students at universities using these authentic materials to examine their effectiveness, and found that these materials could contribute to improving their oral proficiency and boosting their motivation to learn the Japanese used in business settings.

研究分野：応用言語学

キーワード：タスク理論 ビジネス日本語教育 教育用タスク タスクの真正性 ロールプレイ 議事録作成 外国人材育成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

h g f 1 . 研究開始当初の背景

近年、日本社会の労働力不足を背景にして、外国人社員、特に高度海外人材と呼ばれる高等教育機関の卒業生、修了生は日本企業にとって不可欠な存在となった。しかし、外国人社員の候補者である留学生に対するビジネス日本語教育に関する研究は、教材開発を含め、緒に就いたばかりである。既存のビジネス日本語教材は高度海外人材の養成という観点から開発されたものではないため、日本企業で活躍できる留学生の指導には不十分な点がある。また、それらの教材の多くは理論に基づいて開発されたものではない。効果的な教材開発のためには第二言語習得研究での知見を活かすことが必要であり、教材開発後はそれをういた教育実践を行い、指導の効果を検証して改善を図るというサイクルを作り上げることが必要である。

2 . 研究の目的

ビジネス日本語教育に資することを目的とし、第二言語習得研究におけるタスク理論に基づき、次の3点を目標に研究を行う。

(1) 真正の高い教材作成の基礎として、まだ十分に調査されていない、ビジネス現場で外国人社員が日本語で行っているタスクの実情を明らかにする。

(2) 外国人社員に対する調査結果に基づき、真正性が高く汎用性のあるタスク教材を大学、大学院などの高等教育機関で学ぶ留学生向けに開発する。

(3) 開発した教材を使用して教育実践を行い、指導効果を検証することにより、日本語教育での議論が未だ不十分なタスク研究に対して理論的な貢献をする。

3 . 研究の方法

上述した研究目的を達成するために、以下のような方法で行った。

(1) 元留学生外国人社員に対する調査

日本企業で働く元留学生外国人社員へのインタビュー調査

ビジネス日本語教育用タスク教材、異文化理解用ケース教材の開発に必要な情報を得るために、外国人社員を対象に職場での日本語使用実態と企業文化に対する意識などについてインタビュー調査を実施した。対象者は大学・大学院を卒業後、日本企業に就職した中国語母語の6人である。一人ずつ対面で1時間程度のインタビューを行った。

日本企業、中国の日系企業で働く元留学生外国人社員に対するアンケート調査

さらに多くの外国人社員から教材開発のための情報を得ることを目的として、対象者を拡大してアンケート調査を行った。調査協力者は日本、および中国の企業で日本語を使って働いている中国語を母語とする元留学生31人(日本勤務19人、中国勤務12人)で、勤務する会社の業種、所属部署は多様である。日本語を使用して行っている仕事内容やそれらの仕事の困難度などについて、ウェブアンケートを実施した。

(2) 教材開発

上記のインタビュー調査を文字化し、その中から得られた情報をカテゴリー化し、真正性の高いビジネス日本語教材開発のための資料とした。研究代表者、研究分担者、研究協力者の4人で様々なタイプの教材を開発した。就職活動も含め、外国人社員が職場で直面する問題をケーススタディとして教材化した。また、どの社員も行っている仕事内容を反映させたロールプレイ教材、ビジネス場面での語彙・表現練習用教材、ビジネスメール・ビジネス文書作成練習用教材、議事録作成練習用教材などを作成した。

(3) 指導効果研究

上記(2)で開発した複数の教材を用いて教育実践を行い、指導の効果を検証する3つの研究を行った。

大学学部の日本語クラスでの研究

学部留学生向けに開発したビジネス日本語教材を1年間の授業(90分授業×2コマ×32週)で試用した。1年間の授業終了時に学習者34人の評価(ビジネス日本語能力の自己評価、授業評価、教材評価)を調査し、その結果を基に開発した教材を用いた指導の効果について検討した。

台湾の大学のビジネス日本語の集中授業での研究

台湾の大学における1週間のビジネス日本語の集中講義(6時間×6日)で、開発した教材を使用して授業を行った。受講生は日本語専攻の大学2年生51人である。集中講義最終日に学習成果を測定するテスト、及び自己評価、授業評価に関わるアンケート調査を実施し、指導の効果を検証した。

大学院ビジネス日本語コースのビジネス文書クラスでの研究

議事録作成練習用の音声教材を開発し、大学院ビジネス日本語コース 2 年に在籍する中国語を母語とする留学生 35 人を対象に教育実践を行った。授業終了後に学生の教材に対する評価、議事録作成に関する自己評価に関する調査を行った。調査項目に対する回答と学生が作成した議事録の成果物を分析し、教材を使用した指導の効果を検証した。

4. 研究成果

以上のような調査、教材開発、教育実践を行った成果を以下に報告する。

(1) 日本企業で働く元留学生外国人社員へのインタビュー調査(向山・村澤・村野・山辺 2018)
調査対象者の属性は以下の通りである。職場での使用言語は業種、職種によって異なるが、どの対象者も主要な仕事は日本語で行っていた。

	勤務先	勤続年数	転職経験	職場での使用言語
A	大学	1 年半	あり	日・英・中
B	アパレル資材生産・販売	4 年半	なし	日・中
C	菓子製造・販売(一部上場)	4 年	なし	日
D	英語人材派遣	1 年	あり	日・英
E	ドラッグストア(二部上場)	2 年半	なし	日
F	航空会社(一部上場)	1 年半	なし	日・英・中

日本語で行うタスクは業種、職種によって異なっていた。しかし、社内のコミュニケーション・電話対応・会議、日報・月間報告書・研修報告書・会議の議事録などの作成、社内・社外メール、顧客からの問い合わせやクレームへの対応・商品説明など社外への対応全般といった仕事は共通して行っていることが明らかになった。

また、外国人社員が共通して難しいと感じていることは、社内用語(繁忙期など) 専門用語、商品名、敬語などの日本語に関すること、日本人なら常識として知っている知識、社内の人間関係などであった。そして、言語や知識の問題以外に、日本人の言動に関して文化の違いを感じていることが明らかになった。例えば、意見をはっきり言わない、あいまいな表現を使う、ルール・規則を優先させ、柔軟な対応をしない、とりあえず謝罪するというようなことで、外国人社員にとってこのような異文化への柔軟な対応を学ぶことも必要であることが明らかになった。

(2) 日本の企業、中国の日系企業で働く元留学生外国人社員に対するアンケート調査

この調査の結果は今後発表する予定であるため概要だけを述べる。日本、中国のどちらで就職する場合にも、口頭でのコミュニケーション能力が仕事の遂行のために最も重要であることが示された。また、日本で就職するか帰国して就職するかによって、職場で求められる能力、スキルが異なっていることも明らかになった。

(3) 教材開発(村野・山辺・向山 2018, 向山・村澤 2019, 向山・村澤・村野・山辺 2019)

3 年間の研究期間に真正性を追究した多様な教材を試作した。就職活動に関わる知識・能力を身に付けることを目指した教材、日本事情も合わせて理解できるようなストーリー性のある会話教材、口頭能力養成のためのロールプレイ教材、異文化理解のためのケーススタディ、音声とイラストを組み合わせた議事録作成練習用の教材などである。これらの教材の一部はすでに公開したが、まだ試作段階で今後より一層の精緻化が必要なものについては現在も開発作業を継続中である。

(4) 学部の日本語クラスでの研究(向山・村野・山辺 2019)

学部レベルの留学生向けに、就職活動と入社直後の場面を設定した総合的なビジネス日本語教材を開発した。日本語運用能力の養成や異文化理解の促進を目指し、モデル会話、ロールプレイ、ディスカッション、メール作成などのタスク、ケーススタディを組み込んだ教材にした。この教材を用いて、学部 2 年の留学生を対象とした授業を行い、その指導効果をいくつかの観点(ビジネス日本語能力の自己評価、授業評価、教材評価)から検討した。学生の自己評価からは指導が口頭表現能力、文書作成能力の向上に貢献したことが示された。また、教材や授業の評価からは、授業全体が総じて肯定的に受け止められていることも示された。例えば、実用性が高い、授業で学んだ内容は実際に使える、就職活動についてのイメージができた、ビジネス用語を学んで就職活動に自信が持てるようになった、といった授業全体に対する肯定的なコメントが多かった。これらのことから、開発した教材や授業方法は多くの学生にとって指導の効果があつたものと考えられる。

(5) 台湾の大学のビジネス日本語の集中授業での研究(向山 2018)

台湾の大学で日本語を専攻する学生 51 人を対象に、開発した教材を使用してビジネス日本語の集中講義を行った。使用した教材は会話(モデル会話・語彙表現・ロールプレイ)、ケーススタディ、プロジェクトワークから構成した。学習成果を測定するテスト、及び自己評価、授業評

価に関わるアンケート調査を実施し、指導の効果を検証した。分析に当たって51人の受講生の日本語能力を当該大学の教師の評価により3レベルに分けて(上位群18人、中位群19人、下位群14人)検討した。初めてのビジネス日本語学習において、概して日本語能力上位群は中位群、下位群よりタスク中心の授業からより多くの学びを得ていたが、すべてのグループにビジネス場面での待遇表現の使用や電話対応などに関して学習成果が認められた。また、ビジネス日本語に対する興味・関心が強くなったという回答が非常に多く、開発した教材を用いた指導によって学生の動機づけが高まったことが示された。

(6)大学院ビジネス日本語コースのビジネス文書クラスでの研究(向山・村野・村澤・山辺 2019, 向山 2020)

元留学生外国人社員に対する調査から、議事録作成はどの職場でも求められると同時に難易度が高いタスクであることが明らかになった。そこで、タスクの真正性を追究し、発話者のイラストを音声とともに提示する方法で、視覚情報と音声を組み合わせた議事録作成練習用の教材を2種類開発した。この教材を用いて大学院ビジネス日本語コースの留学生35人を対象に2回の教育実践を行った。学生の教材に対する評価、議事録作成に関する自己評価、学生が作成した議事録の成果物を分析し、教材を使用した指導の効果を検証した。その結果、学習者はリスニング、議事録を適切な書式に整えることにはそれほど難しさを感じていなかったが、発言のメモを取ることで、議事録に記すべき情報の取捨選択、議事録に適した言語表現の使用に難しさを感じていたことが明らかになった。また、学習者が取ったメモ、作成した議事録の分析から、形式面は問題がなくても内容面はまだ十分とは言えず、繰り返して練習することが必要であること、および、教材だけでなく指導方法についても改善の余地があることが示唆された。

(7)まとめと今後の課題

3年間の研究期間を通してビジネス日本語教育に資することを目的とし、第二言語習得研究におけるタスク理論に基づき上記のような研究を進めてきた。まず、教材の真正性を高めることを重視し、実際に外国人社員が日本語を使用して行っている仕事を特定した。次に、その情報を基にロールプレイ、ケーススタディ、ビジネスメール・ビジネス文書作成練習教材など、多様なタイプのタスクを開発した。これらの教材は場面、状況が明確になるようにストーリーを設定し、その中に難易度を考慮してタスクを埋め込むという考え方で、学習者の日本語能力レベルを考慮して難易度の異なる教材を作成した。開発したこれらの教材を使用して教育実践を行い、指導の効果を検証した。

その結果、どの研究においても指導効果は示されたが、タスクのタイプや日本語能力レベルによっては、より明示的な指導が必要な場合があることが明らかになった。このことから、教材自体の有効性ととともにどのように指導するかという問題を合わせて考える必要があることが示唆された。議事録作成練習用の視覚情報と音声を組み合わせた教材は、これまでのビジネス日本語教育にはなかった新規性のあるもので、学生からも真正性の高さが評価された。また、この教材を使用した指導には効果があることが示された。しかし、議事録作成は非常に認知的負荷の高いタスクであり、2回程度の練習では不十分であること、議事録を作成するための下位のスキル(リスニング、情報の取捨選択、パラフレイズなど)を養成するための教材の開発も必要であることが示唆された。

<引用文献>

- 向山陽子(2018)「外国語環境におけるタスク中心のビジネス日本語教育の効果」『グローバル・スタディーズ』2, 49-62.
- 向山陽子・村澤慶昭・村野節子・山辺真理子(2018)「日本企業で働く外国人社員に対するインタビュー調査 ビジネス日本語教育用教材開発のために」ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会
- 村野節子・向山陽子・山辺真理子(2018)「学部留学生向けビジネス日本語教育用教材の開発と学習者の評価」第23回ビジネス日本語研究会
- 村野節子・山辺真理子・向山陽子(2018)『中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語 就活から入社まで』スリーエーネットワーク
- 向山陽子・村澤慶昭(2019)「議事録作成能力養成のための音声教材の開発」第26回ビジネス日本語研究会
- 向山陽子・村野節子・村澤慶昭・山辺真理子(2019)「ビジネス場面における議事録作成能力養成のための音声教材の開発」カナダ日本語教育振興会2019年年次大会 Proceedings.
- 向山陽子・村野節子・山辺真理子(2019)「学部留学生向けビジネス日本語教育用教材の開発」『BJジャーナル』2, 2-15.
- 向山陽子(2020)「留学生に対する音声教材を用いた議事録作成指導の効果」『グローバル・スタディーズ』4, 61-73.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 向山陽子	4. 巻 4
2. 論文標題 留学生に対する音声教材を用いた議事録作成指導の効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 向山陽子・村野節子・村澤慶昭・山辺真理子	4. 巻 -
2. 論文標題 ビジネス場面における議事録作成能力養成のための音声教材の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カナダ日本語教育振興会2019年年次大会Proceedings	6. 最初と最後の頁 186-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 向山陽子・村野節子・山辺真理子	4. 巻 2
2. 論文標題 学部留学生向けビジネス日本語教育用教材の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BJジャーナル	6. 最初と最後の頁 2-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 向山陽子	4. 巻 2
2. 論文標題 外国語環境におけるタスク中心のビジネス日本語教育の効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村澤慶昭	4. 巻 2
2. 論文標題 日本企業で働く元留学生の対話に見られる「そうですね」の使用について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 向山陽子・村澤慶昭・村野節子・山辺真理子
2. 発表標題 ビジネス場面における議事録作成能力養成のための音声教材の開発
3. 学会等名 カナダ日本語教育振興会2019年年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向山陽子・村澤慶昭・村野節子・山辺真理子
2. 発表標題 日本企業で働く外国人社員に対するインタビュー調査 ビジネス日本語教育用教材開発のために
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向山陽子
2. 発表標題 第二言語習得研究に基づくビジネス日本語教材の開発と実践
3. 学会等名 お茶の水女子大学国際センター主催公開講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向山陽子・村澤慶昭
2. 発表標題 議事録作成能力養成のための音声教材の開発
3. 学会等名 第26回ビジネス日本語研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山辺真理子
2. 発表標題 プロフィシェンシー志向のビジネス日本語教育 真正性の高いタスク教材の活用
3. 学会等名 日本語プロフィシェンシー研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向山陽子
2. 発表標題 実践を研究にするために－事例1
3. 学会等名 ビジネス日本語研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向山陽子
2. 発表標題 ビジネス中国語教材の作成について考える - ビジネス日本語教育からの示唆 -
3. 学会等名 武蔵野大学孔子学院（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村澤慶昭
2. 発表標題 実践を研究するために－事例2
3. 学会等名 ビジネス日本語研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村野節子・向山陽子・山辺真理子
2. 発表標題 学部留学生向けビジネス日本語教育用教材の開発と学習者の評価
3. 学会等名 ビジネス日本語研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村野 節子、山辺 真理子、向山 陽子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 195
3. 書名 初中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語 - 場面に合わせて適切に話そう -	

1. 著者名 村野節子・山辺真理子・向山陽子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 103
3. 書名 中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語 就活から入社まで	

1. 著者名 村野節子・山辺真理子・向山陽子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 外語教学与研究出版社	5. 総ページ数 181
3. 書名 高級商務実践日語 ロールプレイで学ぶビジネス日本語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	村澤 慶昭 (Murasawa Yoshiaki) (30515044)	武蔵野大学・グローバル学部・教授 (32680)	
研究 協力者	村野 節子 (Murano Setsuko)		
研究 協力者	山辺 真理子 (Yamabe Mariko)		